

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立彩志学舎中学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	
2 学校教育目標	一人一人の個性や多様な価値観を尊重し、それぞれの目標に向かって進む生徒を応援する学校
3 本年度の重点目標	①生徒の想いに応える授業や体験活動の充実を図る。 ②多様性の尊重と個々のニーズや事情への柔軟な対応を図る。 ③誰もが安心して学ぶことができる教育環境の整備を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	◎生徒一人一人の学び直しに応じた学習指導の実施に向け、指導方法の在り方に関する研究の推進	○生徒一人一人の学び直しに応じた学習指導の実施に向けた指導方法の在り方に関する研究に取組んだ職員の割合90%以上	B	・開校記念式典・入学式開催前(4月)に、夜間中学研修(先進校視察報告)を計4回実施し、先進校の取組について情報共有を図った。 ・全教職員が九州の夜間中学を視察訪問し、担当教科等における指導方法の在り方について情報交換を実施している。 ・教職員アンケート(11月)を実施し、「個に応じた学習指導の実施に向け、授業づくりや教材の工夫に取り組んでいる」について、肯定的な回答をした教員は100%であった。	B	・全教職員が九州地区を中心とした夜間中学8校の視察訪問を行い、学習指導の在り方等について情報交換を行った。視察報告会(2月)を実施し、各学校の取組について情報共有を図る予定としている。 ・生徒アンケート(1月)では、「授業での先生の説明はわかりやすいですか」について、81.3%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「授業で使う学習プリントは、わかりやすくなるための工夫がされていますか」について、87.5%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・教職員アンケート(11月、1月)を実施し、「個に応じた学習指導の実施に向け、授業づくりや教材の工夫に取り組んでいる」について、肯定的な回答をした教員は100%であった。	A	・開校1年目は様々な面で難しいことがあったと思うが、学び直しを希望して入学してきた生徒の皆さんの思いに寄り添った指導を行っていると思う。 ・高校へ進学を希望している生徒の進路希望の実現に向けて、県教委とも十分に制度の確認を行う必要がある。	基礎学力向上・学び直し研修担当 管理職		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校教育活動全体を通して、個性や多様性を尊重することの大切さなど豊かな心を身に付けられるための取組を年3回以上実施する。	B	・校外学習の実施等を通して、他者と交流・協力を図る場を設定する。 ・外部専門機関の協力のもと、日本の伝統的な行事、文化的な催しに触れる機会を通して、多様性を認める機会を設ける。	A	・12月に2回目の校外学習を実施した。吉野ヶ里歴史公園では勾玉づくり体験を行い、他者と交流・協力する機会となった。 ・本校では3学年合同の道德及び学活の時間を設定している。3学期は節分学習会(1月)を実施した。自己を表現するとともに、多様性を認めることをねらいとして、鬼のお面に色を塗る活動を行った。 ・道德の授業では、多様性を尊重し、互いに認め合うための授業として、互いの距離感についての授業、ありのままの自分であることの大切さに関する授業を行った。	A	・学校行事を良いタイミングで行っている。みんなで取り組んで楽しかったという思いが強いことから、学校のイベントは大事だと思う。	道徳教育推進教師 管理職		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	A	・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上実施する。	A	・いじめ・体罰等対策委員会(5月)、いじめの対応に関する職員研修(9月)を実施し、組織的な対応に向けた取組を行っている。 ・教職員アンケート(11月)を実施し、「いじめ防止等について、組織的対応ができている」について、肯定的な回答をした職員は100%であった。	A	・外部の専門家や地域の方と連携し、学校以外の場の方々を学校に巻き込んでいくことが大切だと思う。	生徒指導主事 管理職		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒85%以上	A	・生徒の資質・能力を伸ばす授業実践や指導方法の改善に向けた職員研修等を実施する。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践	A	・学校生活アンケート(11月)を実施し、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、肯定的な回答をした生徒は89.5%であった。また、「卒業後の目標や将来の夢を持っている」について、肯定的な回答をした生徒は85.0%であった。 ・学校生活での悩みや進級・進路について話をすることを目的に教育相談(4月、9月、11月)を実施し、生徒理解に努めている。(4回目の教育相談を2月に実施予定)	A	・学校生活アンケート(1月)を実施し、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、肯定的な回答をした生徒は87.5%であった。また、「卒業後の目標や将来の夢を持っている」について、肯定的な回答をした生徒は81.3%であった。 ・第4回教育相談(2月)では、生徒理解に努めるとともに、進級や進学、卒業後の進路等について、必要に応じて保護者や関係者とともに話をする機会としている。	道路指導主事		
	○豊かな国際理解・国際感覚をもち、他者の人権を尊重するなど、誰に対しても優しさや思いやりがもてる豊かな心を身に付ける教育活動	○楽しい学校づくりに向けたアンケートを実施する。アンケートを通して他者の人権を尊重するなど誰に対しても優しさや思いやりがもてる」と回答した生徒75%以上	A	・楽しい学校づくりに向けたアンケートを年2回以上実施する。	A	・学校生活アンケートを実施し、「一人一人の違いを認め、思いやりの気持ちをもって学校生活を送っている」について、肯定的な回答をした生徒は95.0%であった。引き続き、学校生活を通して人権尊重の意識の醸成に努めたい。	A	・学校生活アンケート(1月)を実施し、「一人一人の違いを認め、思いやりの気持ちをもって学校生活を送っている」について、肯定的な回答をした生徒は87.5%であった。 ・学校行事において、生徒の出番を設けたり、生徒同士の交流が生まれる取り組みを行い、生徒の自己肯定感を高める工夫を行いたい。	管理職		
●健康・体づくり	●健康を何より大切だ」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒85%以上	B	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行し、啓発を図る。 ・保健体育や学級活動の時間を通して、石けん手洗いで感染症予防や歯磨きの大切さを学習する機会を設ける。	B	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施した結果、「健康は何より大切だ」との生徒回答94.4%で、成果指標を十分に達成できた。また、「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」との生徒回答77.8%で成果指標をほぼ達成できたといえる。	B	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施した結果、「健康は何より大切だ」との生徒回答76.5%であった。前回(11月)の調査結果を下回った。一方、「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」との生徒回答82.43%で成果指標を達成できた。	A	・達成度はB評価だが、1年目としてはよく頑張っていると思う。	保健主事 養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時出退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定	A	・毎週水曜日を定時出退勤日としている。 ・夏季休業中8/7～8/16(10日間)を学校閉庁日とした。 ・全職員が時間外在校等時間の上限を遵守している。	A	・職員会議資料を事前にメールで送信することで、会議時間の短縮とペーパーレス化に努めている。 ・職員の時間外在校等時間の月平均(4月～1月)は14時間25分であり、全職員が時間外在校等時間の上限を遵守している。	A	・昼間の学校とは勤務時間帯が異なるため、生活習慣の変化があったと思う。先生方の健康には十分に配慮していただきたい。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する職員の意識の向上	○特別支援教育に関する研修を1回以上実施する。	B	・特別支援教育に関する研修会の実施	B	・開校記念式典・入学式を開催する前(4月)に県教育委員会特別支援教室指導主事を講師に招き、職員研修を実施した。	B	・特別支援教育コーディネーター地区別連絡協議会や特別支援教育管理職研修に参加し、必要に応じて情報共有を図った。	A	・達成度はB評価だが、1年目としてはよく頑張っていると思う。	特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○日本語指導研修の充実	◎日本語指導を必要とする生徒への計画的・効果的な指導方法の改善に向けた研修の実施	○日本語指導に関する指導方法の工夫・改善が図れた職員の割合を80%以上	B	・外部の専門講師を招聘し、職員研修を実施する。 ・職員研修を年3回以上実施し、職員の資質・能力の向上を図る。 ・教職員アンケート(11月)を実施し、「日本語指導を必要とする生徒への学習指導について、指導方法の工夫をしている」について、肯定的な回答をした職員は88.8%であった。 ・入学式前(4月)に、夜間中学校研修会(「日本語指導について」講師：本校日本語指導担当)、「やさしい日本語」講座(講師：佐賀県日本語学習支援「カスネット」員松明子先生)を実施した。 ・佐賀県国際交流協会「多言語通訳コールセンター(電話通訳サービス)の使い方」に関する研修会(6月)を実施した。	B	・教職員アンケート(1月)を実施し、「日本語指導を必要とする生徒への学習指導について、指導方法の工夫をしている」について、肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・佐賀県国際交流協会主催の「日本語学習ボランティア等養成講座」(計6回)に全教職員(事務職員除く)が一回以上参加し、日本語指導の在り方や学習指導の実践について研修を受けた。	A	・日本語学習に関する研修に全教職員が意欲的に取り組んでいる。 ・日本語指導が必要な生徒への支援を行うための研修ができている。	日本語指導担当		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学習指導においては、生徒が一人一人の学びの状況に応じて学ぶことができるように、6月から学年での授業ではなく、コース制での授業を実施している。次年度も引き続き、コース制での授業を行い、生徒がそれぞれの目標に向かって安心して学ぶことができる環境を整えていく。 ・本校には、10代から80代の生徒が在籍しており、また、外国にルーツをもつ生徒も複数在籍している。今年度と同様に、教育相談を年間4回実施し、生徒理解に努めるとともに、毎日実施している生徒理解連絡会に加えて、1月から生徒支援会議(毎週水曜日)において、支援のあり方について情報共有を行っている。 ・授業や学校行事において、生徒が企画に参加したり、これまで以上に生徒の出番を設けたりして、生徒同士の交流がさらに生まれる取り組みを行い、生徒の自己肯定感を高める工夫を行いたい。
----------------	--